

事例42 単元「内陸アジア世界の変遷ーモンゴル民族の発展ー」

歴史への関心・意欲を高め、自ら考える姿勢を身につける授業

地理歴史 世界史B 普通科・理数科 第2学年

石川県立七尾高等学校

1 事例の概要

高校で初めて多くの地域や民族が登場する世界史を学んでみて、難しい、わかりにくいと感じている生徒が多い。そこで、どのような過程で地域・国家が成立・変化し、周辺地域にいかに関与を及ぼしたかを理解させることにより歴史への関心・意欲を高め、自ら考える姿勢を身につけることが必要である。

『高等学校学習指導要領解説・地理歴史編』の世界史Bでは、政治史のみの学習にならない配慮として、「諸地域世界の形成や交流の扱いにおいては、地域の風土を生かした人々の生活や文化、信仰に触れたり、相互の交流を媒介した交通・運輸手段や取引された物産に着目させるなどして、できるだけ具体的かつイメージ豊かに歴史の様相や展開を理解できるように工夫する」としており、また比較文明の視点及び日本の位置付けとして、「日本人にとっての世界史という観点から、世界史学習の全体を通じて世界の中の日本の位置に着目させることが必要」としている。

今回の授業で取り上げたモンゴル帝国については中学時に元寇について学習しており、モンゴル帝国が日本に与えた影響の大きさについて理解を促しやすい分野である。またマルコ＝ポーロが口述した『世界の記述（東方見聞録）』の内容を知ることは学習に対する高い関心を持つことができ、世界の中の日本を実感できる史料の一つである。史料を読み、分析することによって、どのような歴史的背景や歴史的事実があったのかを知り、そのことによって、自ら学び、自ら考える姿勢が身につくと考え、学習活動を展開した。

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ① 内陸アジアの風土、遊牧国家の動向に触れ、モンゴル帝国に対する関心を高め、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程について把握し、基本的知識を身につけている。
- ② モンゴル帝国の興亡と諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割について考察し、その歴史的意義を的確に判断している。

(2) 指導上の工夫点（視点）

- ① ワークシート・図説を活用して、モンゴル帝国を訪問した人物や流入した宗教・文化を確認し、モンゴル帝国が東西交流に果たした役割について理解させる。
- ② 史料『世界の記述（東方見聞録）』を読み、その中で日本がどのように紹介されているのかを確認し、この旅行記がヨーロッパ人に与えた影響を考察させる。

3 指導の実際

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
・モンゴル帝国が東西交流に果たした	・モンゴル帝国を訪問した人物や流入した宗教・文化にはどのよ	・資料を用いて確認する。 ・ユーラシア全土を結んだネット

役割を理解しよう	うなものがあるかを理解する。 ・モンゴル帝国が東西交流に果たした役割について理解する。	ワークが形成されたことを確認する。
・『世界の記述』がヨーロッパ人に与えた影響を考えよう	・『世界の記述』を読み、日本がどのように紹介されているのかを理解する。 ・『世界の記述』がヨーロッパ人に与えた影響を考える。	・『世界の記述』がヨーロッパ人のアジアへの関心を高めることになったことを確認する。 ・大航海時代への要因の一つになったことを説明する。

C-1 指導案

C-2 ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 講義形式の授業では集中力が途切れてしまいがちであるが、ワークシートへの記入や発表により、生徒に思考する機会を多く提供でき、また思考を深めることもできた。
- ② 本校の図書室にある『東方見聞録』を提示し、抜粋したものを史料として読ませ、日本がどのように紹介されているのか、この書物を読んだヨーロッパ人たちは日本に対してどのような気持ちを持ったのかを発表させたところ、多くの活発な意見があり、生徒の関心・意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ① 授業内において、ワークシートへの記入や意見発表の場を設けることは授業への関心・意欲を高め、自ら考える姿勢を身につけることにつながる。そのためには思考や発表の時間を十分確保しなければ、確実なものにはならない。しかし、その時間を十分取れば進度が遅れてしまうという問題が生じてしまう。進度確保を図るという面とのバランスをとることが非常に難しい。
- ② 思考・判断の評価規準について、生徒それぞれの意見・発表にどう差をつけるのかが難しい。